一般演題ポスター｜一般演題：一般演題ポスター

[Poster] 一般演題ポスター【抄録・スライド】

[P26-01] ４年制大学救急救命学科生の PH-ECG(STEMI)判読に関する理解の現状について

*木村 菜摘[1]、福岡 範恭[1] (1. 京都橘大学健康科学部救急救命学科)

背景：STEMIの再灌流時間短縮には救急隊による病院前標準12誘導心電計（以下，PH-ECG）の活用が有効とされているが，救急救命士養成課程での教育は十分ではなく，報告もみられない。
目的：本学科生の PH-ECG（STEMI）判読に関する理解の現状を調査し報告する。
方法：本学科３・４年生を対象に，PH-ECGに関する設問を無記名のWEBフォームを用いて調査した（2023年9月）。項目は次の6項目とした（装着部位①，判読問題②肺血栓塞栓症③下壁梗塞④前壁梗塞，PCI時間⑤，在学中の学習到達目標⑥）。
結果：正答率は，①86.5%，②19.1%，③38.2%，④39.3%，⑤20.2%であった。学年で有意差がみられたのは④のみであった（4年生 51.1%，3年生 27.3%：$p<0.05$）。⑥では「冠動脈支配領域の理解まで」が70.8%，「国試で正答できる程度」が28.1%であった。
考察：STEMIの判読問題③④の正答率が低いことから，誘導と梗塞部位の関係が理解できていないことが考えられる。結語：本学科生のPH-ECG（STEMI）の判読に関して，学習到達目標は低くはないが，理解は不十分であった。

©一般社団法人日本臨床救急医学会